



2015 SUPER GT
LM-corsa・OTG Race Report
第5戦 鈴鹿サーキット

◆ 8月29日(土) < 予選 > 天候:曇り | コース状況:ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹・ドミニク・ファーンバツハー
23位 / 2分01秒357

激戦の続く AUTOBACS SUPER GT シリーズ。シリーズも後半戦となった今回はシリーズでも屈指の長丁場、鈴鹿1000kmだ。毎年のように“猛暑・酷暑の耐久レース”として知られてきたが、今年は不順な天候によって涼しいほどのコンディションとなった。

飯田章 / 吉本大樹のドライバーコンビで参戦する LM-corsa チーム。参戦 2 年目となった今シーズンは、マシンを国産の LEXUS RC F GT3 にコンバートしての挑戦となった。新たに開発されたマシンだけに、まさに『生みの苦しみ』がついて回るが、チームは丸丸となってチャレンジを続けてきた。前回の第4戦富士で久々に完走、しかも幾つかマイナートラブルは発生したものの、大きなトラブルとは無縁で大切なデータも蓄積できた。その流れをより着実な上昇気流とするためにも、過酷な 1000km レースは絶好の機会。こうとらえたチームはモチベーションを一層高めてサーキットに集合した。

なお今回は 1000km レースということで第3ドライバーの登録も可能となり、チームでは菅生のテストにも参加していたドミニク・ファーンバツハー選手を招へい。ドイツのニルブルクリンクなどのレースで LEXUS RC F GT3 の開発を担当しているだけに、彼のコメントも大きな力となるはずだ。もっとも「クルマのセットが(ニルブルクリンクでテストしているクルマと 60 号車では)全く違うから、ちょっと戸惑っているんだ」というのが菅生テストにおける彼のファーストインプレッションだった。

レースウィーク初日となった土曜日は、午前中に公式練習、午後には公式予選が行われる、というもので、ノックアウト方式で行われる予選のスタイルも含めて、いつも通りのスケジュールとなっている。公式練習では飯田が 6 周、吉本が 14 周、そしてファーンバツハーが 4 周を走ったが、タイムは 2 分 03 秒 754。トップとのタイム差は 4 秒以上と大きく、まだまだ道半ば、の感は否めなかった。その一方で、今回もトラブルフリーで走れたことは大きな一歩でもあった。吉本が Q1 を担当した午後の公式予選ではタイムも 2 分 01 秒 357 まで詰め、トップとのタイム差も 2 秒余りまで詰めることになった。

明日の決勝は午後 0 時半スタート。高まった信頼性とチームの総力を武器に、どこまで上位に進出できるか？ 大いに期待したいところだ。



ドライバー／吉本大樹 Q1:2分01秒357/23位

「朝の公式練習を終え、サーキットサファリまでの短いインターバルにセットアップを少し変更したんです。そうしたら随分バランスが良くなって、公式予選ではトップとのタイム差も随分詰めることができました。自分としても良いアタックができたという自負もあるし、もちろん満足しているわけではないけれども、今の状態ではベストな結果だと思っています。ただし、今日のセットでは決勝は厳しいと思います。というのも、今日は予選用ということで、あえてタイヤに厳しいセットで臨んだのです。だからこのま

までは明日のレースが厳しくなるので、もう一度ミーティングしてセットを考えてみます。このクルマは高速コーナーでバランスが良いから、実は鈴鹿のようなコースは得意なんです。決勝に関してはノータラブルで、そしてチーム全員の力で着実に追いつけて行く。雨だと、開幕戦がそうだったようにもっと効率的なレースになると思っています。入賞を目指して頑張ります」

監督／小林敬一

「吉本が頑張っていて、クルマやタイヤの（現時点でのポテンシャルを）使いきった公式予選だったともいいます。明日の決勝レースは長いので、まずはノーミス・ノータラブルで完走。それができれば結果もついてくるでしょう。いつもそうですが、まずは完走。これが作戦です。最後まで応援をよろしくお願いします」

